

## 年 頭 所 感

一般社団法人 全国信用組合中央協会  
会 長 柳 沢 祥 二

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

令和7年の初春を迎えるに当たり、関係各位には、旧年中に賜りましたご支援、ご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

### 《経済情勢等について》

我が国経済は、政府において日本経済・地方経済の好循環実現に向けて、成長分野への投資促進、中小企業等の経営基盤の強化・成長の支援、地方創生の推進などの経済対策が公表され、賃金・所得の増加、生産性の向上を重視する方針が示される中で、景気は緩やかな回復基調にあります。しかしながら、米国の保護主義化による政策変更、中国の内需不振、中東やウクライナの地政学リスクの高まりなど、今後の景気を懸念する材料が山積しており、金融・為替市場を巡る不確実性は引き続き高い状況が続いております。

国内においては、地方経済が人口減少による過疎化や地域産業の衰退等の課題に直面する中、信用組合は、地域における雇用、生活・コミュニティの維持に必要な役割を果たしている中小企業・小規模事業者や生活者の一番身近な存在として期待にお応えするため、お取引先に寄り添い、真のリレーションシップを発揮すべく尽力してまいり所存でございます。

また、本年は、平成24年に続き、国連が定めた2回目の「国際協同組合年」であります。今回のテーマは、「協同組合がよりよい世界を築きます」とされており、協同組合モデルが多く世界的な課題を克服するための不可欠な解決策であること、また、気候変動やパンデミック後の社会再建が重要な課題となっている中で、持続可能な開発目標(SDGs)を達成するために重要な役割を果たすことにスポットライトを当てております。

本会といたしましては、国際協同組合年を協同組合の一員である信用組合のプレゼンスを高める絶好の機会と捉え、信用組合が相互扶助(共助の精神)を基本理念と

する協同組織金融機関として、各コミュニティにおいて果している役割や機能、存在意義について積極的にアピールしてまいり所存でございます。

## 《信用組合業界の課題等について》

ここで、信用組合が取り組むべき課題等について申し述べたいと存じます。

### （事業者支援の推進について）

第一に事業者支援の推進について申しあげます。

現在、生産年齢人口が減少する中、深刻化する人手不足、後継者不足、物価高騰、価格転嫁、生産性・付加価値の向上、デジタル化への対応など、中小企業・小規模事業者における課題が山積する中で、信用組合による事業者への伴走支援はさらに重要度が増しております。

事業者の経営力、稼ぐ力を支援していくためには、各信用組合が事業環境の変化を的確に捉え、事業者の強みや地域とのつながり等を生かしつつ、支援専門機関等との連携強化に積極的に取り組み、一歩先を見据えた対応を行うことで、経営の持続可能性、成長機会の確保に繋げてまいりたいと考えております。

### （組織力の強化について）

第二に組織力の強化について申しあげます。

先に掲げた実効的な事業者支援や将来的な人口動態等を踏まえたビジネスモデルの持続可能性の確立に対応していくためには、人的資本経営に対応した組織力の強化が不可欠であります。

特に、人材の採用確保をはじめ、人材育成の充実、女性活躍の推進、職場環境の改善など人的資本経営への取り組みは、組織の新たな可能性、成長に繋がるものであり、地域・業域・職域のコミュニティを支える存在として信用組合の企業価値を高めるものと考えております。

また、経営戦略の実行基盤となる役職員においては、一人ひとりが公共的使命の重みを自覚するだけでなく、法令やルール等の社会的規範についても正しく理解し、誠実かつ公正な組織運営、健全な業務運営の遂行を通して、組織内はもとより、組合員をはじめとするお取引先とも揺るぎない信頼関係を確立するなど、ガバナンス

の向上に努めていくことが重要であると考えております。

### **(リスク管理等態勢の強化について)**

第三にリスク管理等態勢の強化について申し上げます。

リスク管理態勢では、金利上昇等を踏まえた有価証券ポートフォリオのリスク管理や信用リスク等の管理態勢をはじめ、マネロン・テロ資金供与対策、金融犯罪、サイバーセキュリティ等の強化が求められております。特に、金融犯罪やサイバーセキュリティの分野においては、デジタル技術の発展などにより手口がますます高度化・多様化・巧妙化し、これまでよりも一歩踏み込んだ対策を講じていかなければ、金融機関の信頼性が損なわれる事態に陥りかねないと考えております。サイバーセキュリティ対策については、昨年10月に当局よりガイドラインが示され、早急に対応することが求められており、信用組合では業界を挙げて着実な対応を進めていきたいと考えております。

こうした信用組合を取り巻く事業環境の変化に対しては、経営トップのリーダーシップのもと、一人ひとりの力を結集し、ワンチームとなって適時適切に取り組み、リスク管理等態勢の強化に努めてまいり所存でございます。

### **(DXの推進について)**

第四にDXの推進について申し上げます。

デジタル化の活用による生産性の向上は、事務負担の軽減による業務の効率化やコスト削減のメリットに寄与するばかりでなく、バンキングアプリ、手形・小切手の電子化等への対応を行うことで、信用組合自身はもとより、お取引先においても有益になるものであります。

DXの推進は、組織全体の見直しに寄与する取り組みであり、活用の仕方によっては、競争優位性、独自性の強みに繋がり、新たな可能性が広がる効果が期待できるものと考えております。

本会では、全信組連、信組情報サービスと連携し、さらなる信用組合の強みや特性の発揮に向けて業界としてのデジタル対応を推進すべく、引き続き、各信用組合のニーズや目指すべき将来像を見据えながら対応してまいりたいと存じます。

以上、信用組合業界の課題等について申しあげましたが、それ以外にも対応すべき課題は山積しておりますが、全信組連等との連携を強化しながら、引き続き各信用組合の支援を積極的に進めてまいりたいと考えております。

### 《令和7年度事業方針について》

次に、本会の令和7年度の事業方針について、触れさせていただきます。

前述のとおり、信用組合は、様々な経営課題を抱えていることから、本会では、その役割を全うすべく、外部機関・関係団体とのネットワークを活かし、信用リスク等の管理態勢をはじめ、金融犯罪、サイバーセキュリティ対策、マネロン・テロ資金供与対策、事業性融資推進法等、各種制度・規制等への対応、さらには、DX推進、脱炭素化等の課題解決に係るサポート力の向上に努め、信用組合の適切な実務対応に向けた支援を進めてまいります。

また、「しんくみブランド」の認知・浸透に向けた広報活動については、信用組合の取引先、特に預金者の大宗を占める中・高齢層や事業承継等による組合員の世代交代が進む中で、次世代を担う若年層の取り込みに向けて、それぞれの年齢や属性に対して、最も効果が期待できるメディアを活用し、信用組合の役割や特色ある活動など動画等を通じて信用組合に対する具体的なイメージが想起できるよう、積極的な情報発信を行ってまいります。

さらに、研修事業の充実・強化については、信用組合が、事業者支援の推進など、求められる役割を果たしていくためには、価値創造の源泉となる人材への投資を通じて、職員一人ひとりの能力向上に向けた取組みの継続実施が必要不可欠です。

これを実現するため、若手職員から管理職までを対象とした階層別研修に加え、時流に合った適時・適切な研修メニューを用意し、各信用組合の人材育成に資する支援としての期待に応え得るためにも研修事業の充実・強化に積極的に取り組んでまいります。

以上、縷々申しあげましたが、個々の信用組合の取り組みは勿論のこと、本会と全国143の信用組合の集合知を共有し合い、これらの課題解決・目標達成に取り組んでまいります。

本年の干支は、「乙巳（きのと・み）」でございますが、蛇は「再生と変化」を意味し、皮を脱ぎ捨てて新たな姿に生まれ変わる姿がその象徴となっています。こうした意味から、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年になるといわれております。

信用組合業界においても、さらなる成長の年になるよう、地域・業域・職域の各信用組合が持つ優位性や独自性の強みを活かしながら、事業者・生活者への情報提供や課題解決支援等に積極的に取り組んでまいり所存です。

最後になりますが、本年が皆さまにとりまして、より良い年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

以 上